

春いくたび

宮坂 静生

山 壁の 荒れの 収まり 庭 乾く

子らを送る三句

卒園子 ドイツへ 渡る 雲の 裂きれ

空港へ 炊飯器 さげ 雛 残し

出直しの子らよ 芽ぶきの ネッカ川

お水取 猛禽 迦か楼る 羅火を 食べに

ひと 跳ねに 公魚ひと 世了りけり

弟薫(三・二五)を悼む

彼岸まで 辿りつきしか 春の 雁

「暁」十周年祝

春 暁の 山 壁 ひらく 草の上

臥すは 智者歩くは 愚者か 初 茜

寒 暁の 無韻の 透る 大地 かな

「夏爐」八〇〇号祝

春の 爐に 羽音 あつめて 炎立ほむらつ

蕪城先生 燈心草の やうな ひと

「森の座」創刊祝

草田男の 森の木の 根が 明きに けり

森の 座や 始祖鳥が るて 蕨 萌ゆ

